

令和2年度が始まりました

皆さんが戻ってくる事を楽しみにしています

令和2年度になりました。臨時休校が始まってから1ヶ月以上が経過しています。長期間に渡る異例の休校になってしまいました。仙台市では、感染者が少しずつ増え続けていて、心配と不安を抱えたままで、学校再開の日を待っている状態です。

この間、長町中学校では、青学年の生徒達が保護者、ご来賓の皆様が不在の中で、卒業証書授与式を行いました。皆さんの先輩方は、様々な思いを胸に秘め、涙と笑顔、そして素晴らしい態度で卒業していきました。そして、3月末には、放送による先生方を送る会が行われました。ご退職の先生、ご栄転の先生方にとって、生徒とのお別れの式はとても大切なものでしたが、それも十分な形でできないままの離任となってしまいました。それでも長町中学校を離れていった先生方は、「最後に生徒達と会うことができただけでもよかったです。長町中学校で多くの生徒達と出会い、幸せでした。」と、皆さんとのこれまでの日々を振り返りながら、そして、これからの皆さんの活躍に思いを寄せながら、新しいスタートを切りました。

3月は、2度の登校日を設定しましたが、多くの生徒達が登校してくれた事に対して、先生方はとても嬉しそうでした。休校になって以後は、長町中のすべての教職員が「生徒がいない学校」に対して、様々な思いを持って生活してきました。一緒に活動できない寂しさ、部活動で成長する姿を見ることができない寂しさ、喜びを共有できない悲しさ……。やはり学校は生徒がいて、教職員がいて成り立っているものだ痛感します。

当たり前の日々がいかに大切かという事も痛感しました。2011年3月11日、当たり前の生活が0になり、マイナスになりました。多くの方が傷つき、あらゆるものが失われました。あの時、多くの方々が人の優しさや絆の大切さ、物を大切に作る心、そして命を大切に作る気持ち等を心に刻みましたが、時間が経過するうちに、少しずつ忘れ去られていったような気がします。今、またこのような事態になり、当たり前の生活ができていない状態です。皆さんはどんな事を考えながら生活しているでしょうか。

世界中に感染拡大している新型コロナウイルスによって、マスコミから届くニュースは暗い話題ばかりです。すべてが流動的な状態です。皆さんの登校が再開されても、様々な活動に制約があるでしょう。しかし、皆さんが帰ってくる日を、私達は待っています。皆さんが学校にいる事で活気が戻ってきます。昨日は、1時間程度でしたが、校庭や体育館で皆さんの元気な姿に接し、とても嬉しく思いました。「ゲームだけではなく、体もきちんと鍛えていました。」「勉強もちゃんとやっていました。」そんな何気ない会話でしたが、そんな会話さえできない状態でしたので、元気な姿に接し、少し安心しました。

とても心配な毎日ですが、学校再開の日を待ちたいと思います。皆さんはそれぞれ、2、3年生となり、いよいよ長町中学校の中心となります。特に赤学年の生徒達は最上級生となります。学校のリーダーとして手本となるような生活をしてほしいと思います。緑学年の生徒達もいよいよ後輩が出来ます。皆さんが学校に戻り、新生長町中学校として成長できるように、そして何より一人一人の個人が笑顔で生活できるように、早くこの事態が収束する事を祈りたいと思います。